

精度管理とは

がん検診は2段階検診で、まず精密検査の必要性（要精査）の有無を判断し、そしてがん発見のためのさらに精度の高い検査（精密検査）によって、がんを発見する検査です。

そのためがん発見のためには、要精査になる率（要精査率）が高すぎても低すぎても、検診の精度が下がります。

つまり、がんが見つかる数を一定とすると、要精査率が高すぎると多くの方に無駄な精密検査を受けて頂くこととなります。

一方で低すぎても、今度はがんを見逃すこととなりますので、適切な範囲内に入っていることが必要です。

そこで、がん検診が適正に実施されているかをチェックするために、要精査率を把握し、国が出している基準値と照らし合わせます。

これを精度管理と呼んでいます。